

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門基礎	柔道1	実技	1	20	解剖学・運動学・柔道整備理論・柔道整備実技
学科・学年	担当教員名	科目関連実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
柔道整備学科 1年	太田 直樹	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p>柔道を表す言葉、「精力善用」「自他共栄」の意味を理解させる。  「礼に始まり礼に終わる」という柔道の心(礼法)を理解・習得させ、日常生活に活かせるようにする。  受け身を取得させ、日常生活で怪我を起こしにくくする。  「柔能く剛を制す」の考え方の中にある、力の使い方(体さばき・崩し・作り・掛け)を理解・習得させる。  「投げの形」を習得する。  柔道初段取得を目標とする。(2年次)  実技認定試験(柔道)合格を目標とする。(3年次)</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>柔道の授業で求めるものは、「強さ」ではありません。  我慢し努力することの尊さ、人や物に対し敬い感謝する心を育てましょう。  柔道は相手がいって初めて練習ができます。常に相手に感謝する心を持ちましょう。</p>					
教科書・参考書					
<p>プリント・・・「見る・学ぶ・教える イラスト柔道の形」の一部参照  DVD</p>					
受講時留意点、その他					
<p>【 受講科目受講時留意点 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎回、授業開始時は柔道着に着替え(男子は教室、女子は更衣室)、授業開始までに柔道場にて待機してして下さい。</li> <li>● ケツは下駄箱に入れること。</li> <li>● 女子は白で無地のTシャツを着用すること。男子は下には何も着用しないこと。</li> <li>● 女子で髪の毛の長い者は、必ずゴムで束ねること。</li> <li>● 装飾品を必ず外すこと。(柔道場に荷物は一切持ち込まないこと)</li> <li>● 柔道場内は飲食禁止。</li> <li>● 背中にゼッケンを付け、名前を記入すること。(取れたらすぐ縫うこと)</li> <li>● 柔道場に入るときは、一礼して左足から入り、柔道場から出るときは右足から出て一礼すること。</li> <li>● 授業中にふざけた態度をとらないこと。(大事故につながる危険性があります)</li> <li>● 授業中に座って見学する際、正座もしくはあぐらの姿勢でいること。(立膝は禁止)</li> <li>● 立っている際や、座っている際に壁に寄り掛からないこと。</li> <li>● 人の前を通る時は、必ず一礼してから通ること。</li> <li>● 挨拶や返事はしっかり声を出すこと。</li> <li>● 授業内で出来ない場合、必ず自主的に練習すること。(「施設使用許可願」の申請が必要一印鑑を用意して下さい)</li> <li>● 柔道着は必ず持ち帰って毎回洗濯すること。(シミが出来たり、カビが生えやすい為)</li> <li>● 柔道場の掃除をきれいにすること。(柔道場の掃除の仕方に準ずること)</li> </ul>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	<p>定期試験を行います。  ※ 柔道着の着方、身なり(爪・髪・ゼッケンなど)も点数に入ります。  ※ 口頭試問に関しては、70点満点とする。</p>			
その他		<p>※ 柔道着の貸し出しはしません。</p>			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		礼法(立礼・座礼) 柔道着の着方、たたみ方。 重心と支持基底の関係。		/	太田
2		礼法(立礼・座礼) 受身(後受身・横受身・前受身) 組み方 足さばき・崩し		/	太田
3		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(袈裟固)		/	太田
4		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(横四方固)		/	太田
5		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(縦四方固)		/	太田
6		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(上四方固)		/	太田
7		後期定期試験		/	太田
8		前回受身(左右) まとめ		/	太田
9		前回り受身(左右) 浮落		/	太田
10		浮落		/	太田